
gomu

葉っぱ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

gomu

【コード】

N60530

【作者名】

葉っぱ

【あらすじ】

旅に出る 理由も規模も おのおので

もう何時間走っているだろう

家を出た時間も覚えてないし

ここがどこかも分からない

ただ 風の音が脳を駆けずり回り

数メートル先に行く気持ちに

ゴムのようなもので引つ張られる

それは確か課題提出の間際だったと思う。流れ落ちる日常の中で、考えるともなく考えた、住宅の模型を作っていた。あらためて見ると、何の考えも詰まっていなかった箱だった。あれ？あんなに考えたはずなのに、今この手で作り上げている模型は、何の変哲もないただの箱でしかない。

突然 携帯電話が怒声を上げる

授業中、寝ていて先生に不意を突かれるような

その電話は 友達が学校をやめるといふ旨のもの

電話を壁面に叩きつけ、でもしっかりと財布は持って、コートを着て、僕は飛び出したのである。しっかり準備をしたうえで、

目的地は横浜にした。ある種憧れがあつた。時計は零時を回っている。コートを脱ぎ棄てることも、公園の柵をぶち壊すこともできずに、ただただ左右に足を漕ぎ出す

車は悠々と僕を追い越し、すれ違うランナーたちの気配が、太いゴムのようになって僕に巻きついて、背中側にぐいんぐいんと引つ張っていく。僕はそのゴムが切れるまで、懸命に筋肉を躍動させる。ゴムが切れると、体がふつと軽くなって、上半身が腰から前のめりになる。そうして先へ、ひたすら先へ。

橋の真ん中に来て初めて、今自分がどこにいるのかに気づく。県境とはいっても何があるわけでもなく、ただ長く深い水の塊が、僕には聞くことのできない音を立て、のたうちまわっている

何にしてもそうだが、半分すぎたあたりに後悔が胸を浸食してくる、寒さとそれを押し込めて、僕は前へ突き進む

そうして見えてきた、みなとみらいランドマーク

今思えば、あそこで感動のピークが押し寄せた

後はただ、回転活動をやめた巨大遊具と向こう岸の見えてしまっている海が、限りある広がりを見せていた

何を得たわけでもない。体力と途中買った肉まん代を失った

でも恐怖心やその他もろもろも同時に消え失せてくれた。

重い体と多少軽くなった心を従えて、家から引つ張ってきた、伸びきったゴムをたどって、家に帰ることにしよう

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6053o/>

gomu

2010年10月31日03時34分発行